

天歌夢奏

～今心を込めて歌声を響かせよう！～

生徒会で決定したこのスローガンの下、先週から練習がスタートし、一週間後に「合唱祭」を迎えます。

ほとんどの中学校で、合唱を学校行事の大きな柱に位置付けていますが、その学校によって、コンクール形式で実施する場合と、そうでない場合に分けられます。

前者は「合唱コンクール」、後者は「合唱発表会」「合唱祭」「音楽祭」などと冠される場合が多いと思います。もちろん後者のように銘打っても中身はコンクール形式で実施される場合もありますが、当校の今年度の「合唱祭」はコンクール形式ではありません。

7月末に実施した保護者の学校評価アンケートの中でも、「コンクール形式でないと、やる気のあるクラスとないクラスの差が激しいと子どもが言っているので、数年前までのように、コンクール形式に戻すのがいいのではないか」という貴重な意見もいただきました。

実は、合唱をコンクール形式にすべきか否かについては、前例踏襲を是とする学校もあれば、毎年度のように職員会議等で検討される学校も少なくありません。管理職をはじめとする先生方のそれぞれの考えも異なりますし、年度が変われば教職員の面子がガラリとかわることもあり、一から喧々諤々の議論がされる場合も時にあります。

まず、学校行事として合唱に取り組む意義について確認します。私は、大きく分けて2つあると思います。

一つは、音楽に親しみ、合唱の技能を高めること。もう一つは、一つの目標に向かうことで、クラスの一体感・所属感・達成感の獲得を通して個や集団としての成長を図ること。個人的には、前者よりも後者の目的の方が大だと考えます。だからこそ、学級経営の最大の好機として、まとまった期間、放課後等や学活の時間にも練習時間を設けて熱心に取り組むわけです。

今回の指摘の通り、なるほど、生徒のモチベーション・動機付けを高めるためには、賞を設けたり競争原理を導入するのは有効な手立てだと思われます。目的や意義の視点からも、取組が盛り上がること自体は決して悪いことではありません。だからと言って、デメリットや弊害がないかと言え、そうではありません。

これまでの私の経験から言えば、賞や審査結果にこだわるあまりに、次のようなことがありました。

クラスの中でのモチベーションの差によるグループ、男女間の分裂。やる気がない・練習態度が悪い生徒、合唱が得意でない・好きでない生徒が、他の子からの必要以上のプレッシャーで孤立。ライバル意識むき出しのクラス間のいがみ合い。練習がヒートアップして、練習時間オーバーなどの安易なルール無視。練習用に持ち込んだ個人持ちの電子ピアノがいたずらで破損。コンクールの審査結果に大多数の生徒の不満噴出。審査結果が芳しくなかった原因を、担任や音楽の先生の指導力や熱量に責任転嫁。等々。

もちろん、コンクール方式であったとしても、このような事態に陥らないように細心の配慮をしながら取り組むのは当たり前のことではあります。結論から言うと、当校が今年度「合唱祭」にするのは、今年度の生徒や学校の実態を見ての総合的な判断です。

コンクール形式にせずとも、生徒個々やクラスや先生方は、「合唱祭」の目的や意義をよく理解しながら、その達成に向かって最大限頑張ってくれるものと期待し、その力を信じているからです。

また、音楽等の芸術作品とは本来優劣をつけるべきものではないはず。そして、学校でのクラス合唱も、本番だけの演奏の出来栄だけが評価されるものではなく、全員で一つの作品をつくりあげる過程こそが大切だと考えるからです。

「合唱祭」にしたからといって、生徒間で衝突や軋轢、不協和音はもちろんあるでしょう。そういった障害や困難等があつてこそ、その険しい道をみんなで乗り越えてこそ、クラスの団結力が生まれ、個や集団の成長は図れるのです。

コンクール形式にして、音楽の専門家の先生を審査員として迎えても、その方が評価するのは、その時の目の前の演奏のみです。クラスで練習にいい加減取り組んでいたとしても、その数分の音楽としての出来栄のみが審査の対象になって高い評価を得られたとし

たら、それ以上に頑張ってきた他のクラスの生徒がかわいそうです。

教職員が審査したとすれば、音楽の専門的な審査は困難です。まして、合唱曲はクラスで異なり、もちろん曲の難易度や審査員の好みなどにも差があるわけで、スタートラインとゴールが同じで、誰が見ても順番がわかる徒競走などのように評価をすることは厳しいものです。審査の公平性が担保できないのは目に見えています。

以上ご理解の上、生徒も保護者も教職員も楽しめる、充実した「合唱祭」になることを大いに期待するものです。

最後に、音楽の先生には叱られそうですが、担任をしていた頃、生徒以上に合唱に燃えに燃えた私が、クラスを叱咤してきた言葉を全校の生徒への檄に。

「空気中のすべての酸素を吸い込め」

「楽譜なんて無視しろ。強弱をジェットコースターのようにつけろ」

「本番で俺が涙を流すくらいのレベルじゃないと許さないぞ」

「合唱を聞けば、そのクラスの雰囲気やすべてがわかるんだぞ」

「歌は音符じゃねえんだ。歌はハートだ！歌は魂の叫びだぞ！！」

頑張れ二中生。そして、君は君自身のために歌うべし。